

# 平成26年度アマノリ養殖概況

牧野賢治・棚田教生

育苗期（10月下旬～11月中旬）における鳴門庁舎汲み上げ海水温は平年並みから高めに推移した。一方、DIN濃度は、吉野川周辺海域では、10月30日に $3\mu\text{g-at/L}$ 以下であったが、平年並みで推移し、県南漁場では $3\mu\text{g-at/L}$ 以下の地点が見られた。

11月下旬から本養殖生産が始まった。11月中旬から海水温の降下がなく、12月初旬まで平年より高めで推移した。この時期に、原因不明のノリの生育不良が発生し、生産枚数が上がり、第一回の共販が中止となった。鳴門庁舎汲み上げ海水温は12月中旬～1月下旬にかけて平年値を0.2～1.4 下回、それ以降は平年並みから0.7 低い値で推移した。DIN濃度について、吉野川周辺海域では、平年値よりも低い値の頻度が多く、1月下旬～3月上旬にかけてDIN濃度は色落ちの目安となる濃度（ $3\mu\text{g-at/L}$ ）を下回り、ノリの色調低下が起こった。その後、栄養塩が上昇したことにより色調は回復した。県南漁場では11月下旬～12月中旬にかけて平年値より低い値で推移した。その後、1月中

旬まで平年値で推移したが、1月下旬から $2\mu\text{g-at/L}$ 以下の数値を示し、ノリの色落ちが発生した。2月下旬にはDIN濃度が上昇し、色落ちから回復した。

平成25、26年度の徳島県漁連共販数量の経月変化を図1に、年度別に共販数量と平均単価の推移を図2に示した。養殖開始時期の原因不明のノリの生育不良の影響により共販枚数は、12月が前年比79%、1月が同79%、2月が前年比87%であった。3月が同100%となり、下物の価格が通常年と比べ2～3円高かったため、漁業者の生産意欲が向上したことにより、漁期初期の遅れを取り戻すかたちとなった。4月は同90%であり、日照不足による生育不良が原因と考える（図1）。

平成26年度漁期の共販枚数は90,988千枚で、前年比87.8%であったが、平均単価は、例年に比べて他産地の生産枚数減少の影響から8.65円（前年比112.2%）であった（図2）。

水産研究課は、徳島県ノリ研究会に協力し、11月12日に阿南中央漁協で健苗度調査を実施した。

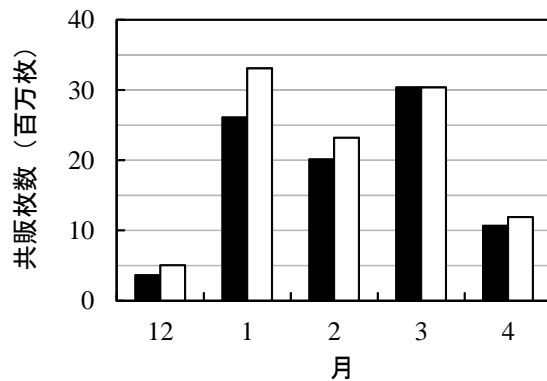


図1. 共販枚数の経月変化。 :平成25年度； :平成26年度

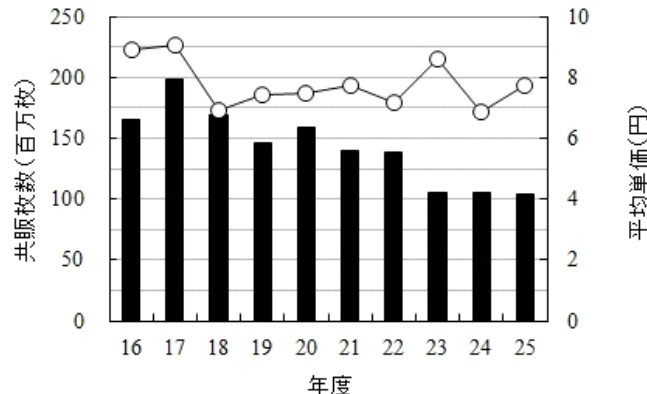


図2. 年度別共販枚数と平均単価の推移。 :共販枚数, :平均単価